

策を振り返る



今年1月5日の沢田地区 園地全体が雪にすっぽりと覆われた

12月から豪雪に見舞われた津軽地方。県は弘前市など10市町村に災害救助法を適用しました。雪害での同法の適用は13年ぶりのこと。1月、2月も雪の日が例年より多く、弘前市では2月23日午前9時の積雪深が観測史上最高の160センチとなりました。

今年の雪の特徴は大量の湿った雪です。今までと同じ体積の雪が降ったとしても、水分が多いため

これまでの大雪を振り返る



今年の雪の特徴は「湿った重い雪」

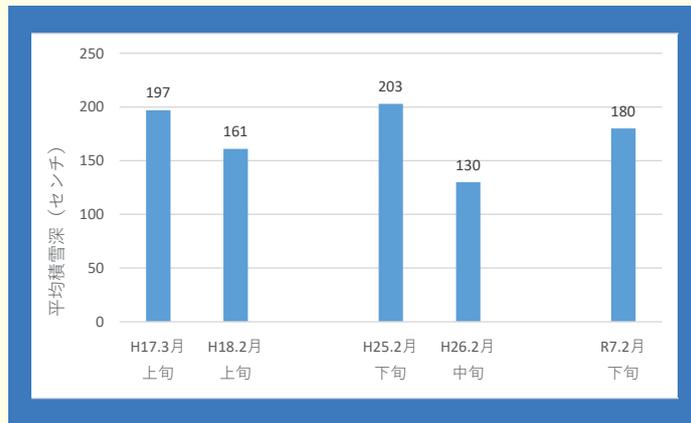
重みが増し、結果、被害を助長することになりました。

当JA管内の積雪深も2月下旬には多いところで180センチとなりました。天候の良い日が続き、雪解けが進むにつれ、リンゴ園では幹折れ・枝折れの被害が徐々に明らかになってきています。また、消雪の遅れによる春作業や生育の遅れも懸念されています。



過去を振り返ってみると約10年に一度、豪雪に見舞われています。前回雪が多かったのは平成25年です。その年の2月下旬の平均積雪深は203センチ。翌平成26年2月中旬の平均積雪深は130センチでした。融雪剤を買いに来る生産者からは「ここ十数年は融雪剤を撒いた記憶がない」と耳にします。きっと平成25、26年以來なのかもしれません。平成25年には災害救助法が適用されています。

その前の大雪は平成17、18年でした。平成17年3月上旬の平均積



雪解けが進み 園地では被害も見えてきた

雪深は197センチ。平成18年2月上旬の平均積雪深は161センチとなっていました。(農業振興課 積雪調査より) 過去の事例をみると豪雪の年も豪雪被害が心配されます。

13年ぶりの

豪雪と その対応



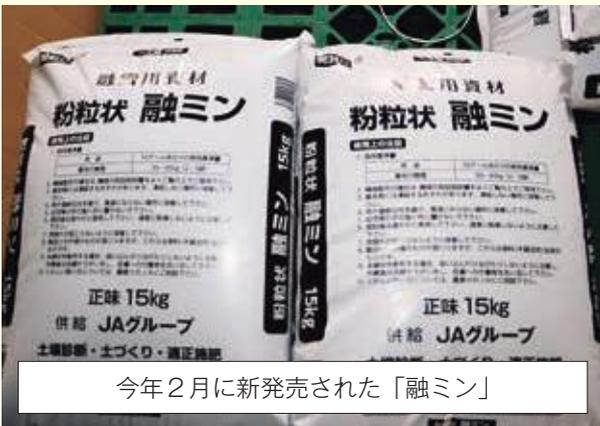
農道除雪を行い、園地へ行く生産者をバックアップ

JAの支援策

JAでは10年以上前から、樹上の雪下ろしや融雪剤散布、剪定作業のために園地へ行く生産者を農道除雪で支援しています。弘前市の「りんご樹雪害対策農道等除雪事業補助金」を活用して幹線農道の除雪を行い、今年度は5回出動しました（3月末現在）。昨年と

一昨年も4回出動しており、生産者が園地へ行ける体制を整えてきました。

また1月上旬には緊急豪雪対策として融雪剤の購入助成をおこないました。通常価格の200円引きで「菌源灰」の予約注文を行い、1,854袋を供給。当用も514袋を供給しました。次いで粒状の融雪促進剤「融ミン」も1,047袋販売しました。「融ミン」は今年できた融雪促進剤で、粉粒状のため飛散が少なく撒きやすいことが特長です。無人ヘリヤドロー



今年2月に新発売された「融ミン」

ンでの散布にも適しています。粒は灰色ですが水分に触れると黒くなり、雪の中に沈んでザラメ状に溶かします。ザラメ状になることで雪に埋もれた枝の周りに空間ができ、雪解けによる沈降圧から枝折れ被害を軽減することができます。

資材の種類や散布のタイミングで違いが出ますが、おおよそ1週間から10日程度消雪を早めることができます。

弘前市の支援策

弘前市ではリンゴ園地等において使用する融雪剤・塗布剤の購入費の助成事業を実施しました。補助率及び交付額は融雪剤の場合、対象経費の1/3以内（上限額：480円/10a）、塗布剤の場合、対象経費の1/3以内（上限額：540円/10a）となっています。対象品を当JAから購入した組合員の申請はJAが一括して行うため、個人での申請は不要です。

県の支援策

県では令和6年度りんご雪害軽減対策事業として、融雪促進剤を空中散布する際の経費を補助する事業を新設しました。事前に「農地ナビ」の図面を提出することや、園地入り口に駐車スペースが必要、融雪剤は生産者側で粒状のものを用意する、散布時は現地立合が必要



無人ヘリで融雪剤を散布した園地。融雪が進み剪定もはかどっている



要などの留意事項がありますが、この事業を活用すると10ア当たり1000円の請負経費を1750円程度に抑えることができます。県の試算では散布事業者に委託する際の標準請負経費は4400円なので散布費用は半額以下となります。2月4日から3月21日の期間で申込みがおこなわれ、当JA管内の申し込み人数は16名、27.5ヘクタールでした。行政や当JAによる農道除雪もあり、3月7日には申込者全員の散布が完了しています。

これからも雪ニモマケズ

今年のような豪雪では、幹線農道から園地まで徒歩で移動するのも困難な状況でした。JAではこれからの雪にも備えるため、2月には小型ロータリー除雪車を急遽購入しました。幹線農道から伸びる枝線の除雪も行い、生産者が作業しやすい環境づくりを進めていきます。

JAはこれからも、県や弘前市と一丸となって生産者の皆さんを



融雪剤の手散布は重労働。15キロ袋を持ち雪の上を歩く



雪に埋もれた枝を1本ずつ慎重に掘り上げる



バックアップしてまいります。厳しい気象条件にも負けず、豪雪にも負けない、強い産地を作っていきます。



JA相馬村はこれからも
県や市と一丸となって
生産者を応援してまいります

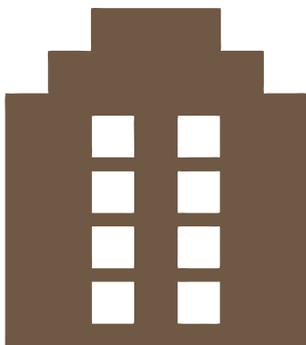
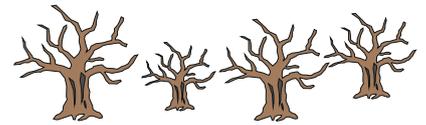
県の支援策

- ・無人ヘリやドローンによる融雪促進剤の散布経費助成



JAの支援策

- ・農道除雪
- ・融雪剤の経費助成



市の支援策

- ・融雪剤や塗布剤の購入費助成
- ・農道除雪費用の補助

